

3. 教育長の報告 平成30年12月定例市議会一般質問項目について

(石川教育長) 資料により説明。

(近藤委員) 西浜議員の質問に荘内地区での病児・病後児保育の「検討状況は」とあるが、市民からの要望を受けてのものか。

(石川教育長) そのようだ。現在の病児・病後児保育の利用状況や、岡山倉敷との相互利用などの話があった。

4. 議 事 議案第33号 玉野市学校運営協議会に関する規則の一部を改正する規則について

(学校教育課長) 資料により説明。

(野田委員) 改正の背景(P6)では、「希望する幼稚園や高等学校にも学校運営協議会設置を可能とする」とあるが、この「希望する」は幼稚園にだけかかるのか。

(学校教育課長) 高等学校にもかかる。現在のところ備南高校に設置する予定はない。

(野田委員) 規則第3条(P7)には「置くものとする」とあり、設置が必須と読める。幼稚園、高等学校は「置くことができる」として、小中学校と分けた方が良いのではないか。

(学校教育課長) 小中学校についても、制度上は設置を強制するものではない。

(石川教育長) 法の求めるところは「置くように努める」ことだったと記憶している。規則第3条の「置くものとする」を「置くことができる」に改めてはどうか。

(学校教育課長) 将来的に廃止する学校が出てくる可能性もある。第3条の該当箇所を「置くことができる」に改めたい。

(石川教育長) 所要の修正をしたうえで承認としてよろしいか。

(承認)

5. 協 議 なし

6. その他

(1) 平成30年 12月補正予算(追加提案)の概要について

(教育総務課長) 資料により説明。

(野田委員) グループ数とは何か。

(教育総務課長) 例えば、築港小であれば6学年6学級あるところを、1・2年、3・4年、5・6年の3つのグループに分け、既存の空調のある2室に、新設1室を加え、3室あれば全児童が空調のある部屋に入れるという考えだ。

(2) 市立高校在り方検討会議の進捗状況について

(学校教育課長) 資料により説明。

(石川教育長) 子どもが減少しており、全体に占める市内出身者の割合が小さくなるのはやむを得ない。市内の中学生が商業高校を選ぶ割合は、平成12年以降大きく変わっていない。
市内への就職が少ないと言われていることについては、市外の生徒にも市内の就職先を紹介しているかを見る必要があるだろう。産業振興的な意味合いになるが、玉野市を通勤圏とする生徒を取り込んでいくという観点は持ってほしいと思う。

(大川委員) 商工高校から、毎年どのくらいの生徒が三井資本の企業に就職しているか。

(学校教育課長) 本社は3～5名で、関連会社を含めれば10名位である。

(近藤委員) 機械科ができて、生徒も地元企業をより身近に感じているのではないだろうか。今の1年生が就職する際は、今までより市内企業を選びやすいのではないかと思う。

(石川教育長) その観点は事情に重要だ。学校はインターンシップを頑張ってくれているが、単に職業を体験するのか、地元就職に繋げる意識を持つかで、数値は変わる余地があると思う。

(学校教育課長) 昨日、インターンシップの校内会議に出席したが、教員は市立高校の使命を深くは認識していないように感じた。
今年度の実施状況を見ると、保育園等、生徒の就職とは関係の低い実習先が多い。今後は製造業15社程度から協力を得られており、機械科全員が製造業で研修できる。また、商業科からも2割程度は製造業に就職しており、市内の製造業に行きたいという希望を持つような指導をという話をしてきた。
市立高校の教員として、玉野市に貢献する生徒を育てるといふ視点を強く持つようお願いしてきた。

(野田委員) 総務文教で言われたという美辞麗句を並べるなの意味は？
(学校教育課長) カリキュラムの工夫による商業と工業の合同学習などのことだが、どうにも理解を得られない。
島留学や山村留学など、全国の魅力化の例を言われる。Iターンなどの例は一部に過ぎず、実際は課題のある生徒が多く、卒業後も島に留まらないという話になりがちなのだが、華々しい部分に目が行くと、カリキュラムの工夫や人間力育成などで理解を得るのは難しいところがあると感じる。

(野田委員) 第1次進学希望調査で機械科が定員以上になっていたが、学校や議員の反応は？
(学校教育課長) 善戦しているが野球関係での志望者が多いのは否めない。また商業科は0.71倍であり、トータルで見ると厳しいという評価だ。

(学校教育課長) 在り方検討会議のビジョンにも織り込もうと考えているが、中高連携を市内でやっていきたい。県立・市立が手を取って、共に市内の中学生に選んで貰える高校づくりを考えており、光南高校、玉野高校の校長に呼びかけ、1月中に会合を予定している。

(3) 平成30年度 卒業証書授与式の日程について

(学校教育課長) 資料により説明。

(4) 平成31年度 始業日等について

(学校教育課長) 資料により説明。

(5) 平成31年 幼稚園・保育園認定こども園の入園申込状況について

(就学前教育課長) 資料により説明。

(6) 就学前園保護者アンケートの実施について

(就学前教育課長) 資料により説明。

(近藤委員) 折角の機会なので、もう少し質問項目があってもよいのでは。
(就学前教育課長) 自由筆記の欄を大きめにとっているのですが、園の運営などに意見がある場合はそちらを利用いただければと思う。

(野田委員) アンケートからは離れるが、幼児教育の無償化にあたり、玉野市の負担はどの程度になるか。

(就学前教育課長) 来年10月から始まるが、来年度については国の全額負担だ。

それ以降は地方消費税の増額分や交付金で賄われる予定だ。
(石川教育長) 消費増税で市の収入も増えるのだから、その分を充てなさいというのが国の考えだ。給食費の部分については純粋に市の負担増になると思われる。

(妹尾委員) 保育士へのアンケートなどは実施しているか。
(就学前教育課長) このようなアンケートは実施していないが、臨時も含めた全員を対象に面談を毎年実施している。また年に1回の自己申告の機会もある。

(7) 平成30年 12月/平成31年1月 月間行事予定について

(教育総務課長) 資料により説明。

(8) 玉野市総合計画について

(石川教育長) 資料により説明。

(野田委員) (P82)施設修繕等は「将来像も勘案しながら」とあるが、将来的に子どもが減るのは間違いないので、必要な修繕をしないとも曲解できるのではないか。

(教育総務課長) 施設修繕等の等には将来的な統廃合の意味合いを含めており、ただ単に現有施設をそのまま維持するのではないという意味だ。

(野田委員) 統廃合が見込まれるところは修繕しないということか。

(教育総務課長) 基本方針にあるとおり、既存施設の安全確保や効率化は行う。

(石川教育長) 安全は確保しつつ、大きな費用を要する修繕を行う際には将来像を勘案するということだ。この部分は議会からの指摘を受けて付け加えた表現だ。

(近藤委員) (P78)指標の「補導件数」は表現が変ではないか。補導に出た回数であって、補導した件数ではないはず。

(石川教育長) 「街頭補導等の実施件数」に改める。

(大川委員) (P72)現況と課題「芸術文化活動は(中略)社会や経済に活力を与え」とあるが、社会や経済に活力を与えるものだろうか。

(社会教育課長) 市民に活力を与えるニュアンスに改める。

(妹尾委員) 指標の数字が低い理由の分析が明確でないように思う。例えばP84の「子どもの学校での教育に満足している割合」は60%だが、私は低いと感じるが、課題が書かれていない。

(石川教育長) 満足度は抽象的な指標であり、インプットとアウトプットが直結しにくく書きにくい部分ではある。

(学校教育課長) 施設がきれいでエアコンがついていることに満足する親もいれば、ALTが常駐していることに満足する親もいる。人権教育や特別支援教育に力を入れていてもなかなか満足度には結びつかないが、市民目線の指標として残している。本市としてはキャリア教育を含め、2番目3番目の指標(夢を持っている割合)を充実させていきたい。

(9) 玉野市教育大綱について

(石川教育長) 資料により説明。

(学校教育課長) 改めて目を通してみると、(2)心豊かで...の①は大きな話で、②③はその中の話になってしまう。もちろん人権教育や健康教育にも力を入れているが、柱とするほど重点的にしている分けではなく、できれば項目自体を修正したい。

(教育総務課長) 総合計画と教育基本計画を一本化する中で、大綱についても総合計画と齟齬があってはいけないということで、総合計画に寄せた項目整理をしてはどうかと総合政策課から提案があった。先ほどの2項目は対応する部分がなく、①の中に含まれるものではないかというものだ。

(石川教育長) ①はキャリア教育を含めた全般的なもので、ユニバーサルデザインなど課題への対応を分けて項目としてもよいのかなと思う。

(学校教育課長) 発達段階に応じた教育は①に含まれてくる。総合計画に寄せていくのであれば、①に特別支援の要素を入れ、②を学力向上を含めたキャリア教育としてはどうか。

(石川教育長) 修正しましたご確認いただく。

次回、教育委員会は平成31年1月22日(火)14:00から第1委員会室で開催するので参集願います。

以上で、第17回教育委員会を閉会します。

議事録調製者

書記

山内 祐樹



会議録署名委員

教育長

石川 雅史



〃

教育長職務代理者

大川 佳郎

